

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 企救 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

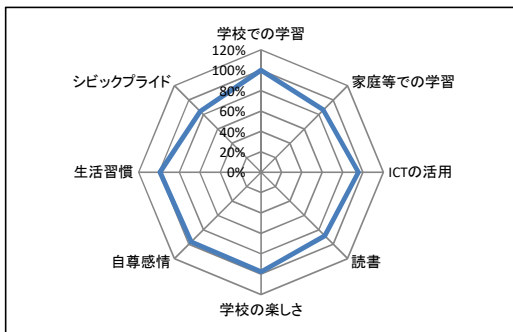
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「思考・判断・表現」の「書くこと」の正答率は平均を上回っているが、「話すこと、聞くこと」「読むこと」の正答率は下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	登場人物が物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く問題（93.3%）	
	努力が必要な問題	物語の展開の仕方を捉え、その効果についての考えを書く問題（7.8%）	

数学	全体的な傾向や特徴など	図形の領域については平均を上回っているが、数と式の領域については大幅に下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	△ABCにおいて∠Aの大きさが50°のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める問題	
	努力が必要な問題	1から9までの数の中から素数をすべて選ぶ問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	設問によっては全国を上回るものもあったが、記述問題では、ほとんどが全国を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	動画を見て正解を選ぶ、元素記号、自身の振り返り	
	努力が必要な問題	記述等、理由を説明するもの、都市ガス、プロパンガスの違い	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「友達関係に満足しているか」との問いに対して肯定的に回答している生徒が約92%、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して約97%の生徒が肯定的に回答しており、落ち着いて安心した学校生活を送ることができていると言える。 ・「先生は授業やテストで間違ったところや理解していないところをわかるまで教えてくれる」との問いに対して、約88%の生徒が肯定的な回答をしている。 ・「休日にどれくらいの時間勉強しますか」の問いに対して、2時間未満と回答した生徒が約77%で、家庭学習の定着が課題である。 ・「授業以外に1日当たりどれくらいの時間読書をしますか」の問いに対して、30分未満と回答した生徒が約83%で本に親しむ取組みが求められる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・どの教科にも共通して言えることは、主体的で対話的で深い学びは授業で実践されているが、文章問題に慣れていないため、問題の要点を読み取る部分に課題が残る。多くの文章問題に触れるような授業づくりを行い、読み取る習慣を身に付けさせていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・朝食を食べずに登校する生徒や、起床、就寝時間がまばらになっている生徒が多く、SNS等に時間を割いている割合が多い。規則正しい生活が、心身共に健康で学ぶ意欲につながることを生徒や家庭に啓発していき、活気に満ちた学校生活や家庭生活を送ることができるように取り組む。